



八王子シルバーニュース おまわり

No.335 2014年3月

発行 公益社団法人八王子市シルバー人材センター



〒192-0062 八王子市大横町 11-35

TEL 042 (626) 1274

FAX 042 (626) 5159

メールアドレス: hachioji-sc@sjc.ne.jp

ホームページアドレス:

<http://www.sjc.ne.jp/hachioji-sc/>

ワークシェアリングの 取り組みが始まる

～就業年限の短縮や就業人数枠の拡大などにより、より多くの人で仕事の総量を分け合い就業サイクルを早めることで会員の公平性を図る～

平成25年度から平成29年度までの5年の事業計画である「第2次中期計画」の基本理念である『やさしさと思いやり』を実現するため、多くの会員が公平に就業できる環境づくりの一環として平成26年度就業分から「ワークシェアリング」の取り組みが始まります。

… 現状 …

当センターの月間就業率は約60%で、2,500名の会員中就業している会員が1,500名。未就業の会員が1,000名となっています。この未就業者の方々を解消するため、業務委員会を中心に就業開拓の取り組みを進めており、一般会員による就業開拓活動の他に就業開拓専門員を配置し積極的に企業や家庭の訪問活動を展開し、一定の成果を上げているものの、1,000名もの未就業者の解消には内部からの総合的な対策が求められる状況です。

… 対策 …

現在行っている就業開拓は強化しながら継続し、現在センターが保有する『就業資産』を現在の就業会員だけで分け合う形から、より多くの登録会員の中で、就業交代のサイクルを早め、就業機会を創出すること。また、一つひとつの職場での就業人数枠を拡大し、就業場所を創出するため「ワークシェアリング事業」として、次の2つの事業を展開します。

1. 特定職場を中心に、現在5年としている最長就業年限を3年とし、平成26年度4月就業分から適用する。

平成25年度以前の就業については、激変緩和のため暫定の就業年限を設定する。

2. 現在、グループ就業を行っている職場の就業人数枠を拡大することにより、既存の就業職場の中で就業の創出を図る。

また、就業会員の選考にあたっては、これまでの選考基準に加えてセンターへの貢献度（ボランティア参加実績、班長・副班長、各委員会委員等の役員経験等や研修等の参加実績）も参考にします。

2月の入会者数

男	女	計
3人	0人	3人

1月末日の会員数

男	女	計
1,964人	533人	2,497人

“定時総会” 日程決まる

公益社団法人 八王子市シルバー人材センター
第4回定時総会

総会は会員の総意をもってセンターの意思決定を行う重要な機関です。会員の皆様には是非とも出席されるようお願いいたします。

都合により欠席される方は、必ず「委任状」の提出をお願いいたします。

開催日時 平成26年6月19日(木)

開催場所 いちょうホール

シルバー人材センターの安全就業に関する調査が実施されました

～各就業現場での事故ゼロの取り組みの一環として～

昨年11月11日に、東京しごと財団の指示の下民間保険会社による当センターの就業現場の安全に関する現地調査が実施されました。

今回の現地調査は、主に高齢の就業者に関する安全衛生全般について、どのような危険が潜在しているかを洗い出し、具体的な改善策を講ずることを目的に実施されました。調査個所はマンション（清掃・管理業務）の外5か所が調査対象になり、次の通り危険度（リスクレベル）の評価結果が出されました。

リスクレベル評価結果

リスクレベル（危険度）		該当数	備考
Ⅳ	安全就業上重大な問題がある	1件	タラップ昇降時の安全対策
Ⅲ	安全就業上問題がある	2件	脚立の敷板の使用、脚立の禁止段明示
Ⅱ	安全就業上多少の問題がある	1件	テーブル運搬時の腰痛注意
Ⅰ	安全就業上の問題は殆どない	0件	
合計		4件	

今回の調査は、「人的要因」「設備的要因」「作業環境的要因」「管理的要因」の4つの観点から実施され、リスクレベルの最も高かった「タラップ昇降時の安全対策」は設備的要因に分類されます。この契約については、発注者に対し設備の改善を申し入れると共に、改善されるまでは危険部分の作業を行わないこととしました。その他、「テーブル運搬時の腰痛注意」は人的要因ということから就業会員に対し作業時の姿勢等腰痛に留意するよう指導し、「脚立の敷板の使用」は管理的要因に分類され、作業マニュアルにこの項目を加える等の指導を行いました。

安全管理委員会では日頃の安全活動に今回の評価事項を反映し、会員の安全就業の向上に努めてまいります。

【参考】

～高齢者の転倒防止のための靴選び～

すべりやつまずきによって転倒しないように、次の3点に注意して靴を選ぶことをお勧めします。

1. 靴底の耐滑性が十分あるか

防滑加工のもの、凹凸が十分あるもの、降水時や降雪時でも滑りにくい全天候型のものなどが該当します。

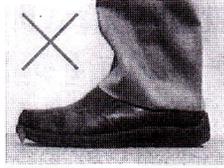
2. 靴に屈曲性があるか

靴底が硬く曲がりにくいと足に負担がかかり、歩行形態が「摺り足」になりやすかつまずきの原因になります。

3. トゥスプリング(つま先部の高さ)がある程度あるか

高齢者は歩行時にひざが曲がりにくくなるために、「摺り足」で歩行しがちですので、トゥスプリングがないとつまずきの原因となります。

	状況 (写真)	説明
屈曲性が 良くない例		靴底の接地面積が小さいので、歩行が不安定でつまずきと滑りの原因となります。
屈曲性が 良い例		靴底の接地面積が広くとれるので歩行が安定します。

	状況 (写真)	説明
トゥスプリング が低い靴		靴のつま先部の高さが低いため、つま先部を床や階段にぶつけてつまずきの原因となります。
トゥスプリング が高い靴		靴のつま先部の高さが高いため、つま先部が床や階段にぶつけないようになっています。